

# 琉球大学学術リポジトリ

## 熱帯植物を網羅的に機能性解析して高度利用する技術開発とマーケティング

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 吉央 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016747">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016747</a>

熱帯植物を網羅的に機能性解析して高度利用する技術開発とマーケティング

○岡田 吉央 ( y-okada@bio21.co.jp http://www.bio21.co.jp )

バイオ 21 株式会社 沖縄県うるま市州崎 12-76 TEL:098-937-0021 Fax:098-937-1166

#### <商品開発のポリシー・テーマ>

沖縄琉球諸島はサンゴ礁に囲まれ、その海域には太古からの清らかな水があります。森林には温帯的な樹種と、亜熱帯的な樹種が混在する特徴的な生態系をもっています。弊社はこの豊かな植物素材と海洋素材を持ち合わせた沖縄の地に誕生した化粧品メーカーとして、その自然の恵みを最大限に活かし、皆様に美と健康、そして心に豊かさをお届けするために日々研究開発に取り組んでいます。

美しく健康的で魅力的な肌（シミやシワ、肌荒れのない瑞々しい肌）は女性にとって永遠の願いです。しかし現実には、膨大なストレス・加齢に伴う生体の免疫力の低下・失われた環境などにより、疲労した身体・不健康な状態が常態化してしまいます。

----- (バイオ 21 のホームページからの抜粋) -----

#### <市場のトレンド>

天然志向と安全志向、そして機能性志向が化粧品業を含む健康産業全体の市場のトレンド＝消費者の指向に成っている。機能性志向の中では、季節、年齢、肌質などに応じたパーソナル化のニーズが高まっており、一部ではオーダーメイド的な商品も出始めている。

これに呼応するように、近年、「科学系」健康情報の TV 番組は大盛況を博する一方で、教育現場では「理科離れ」が問題視されている。この大きな「ギャップ」を内包している事が、健康産業市場の特徴で、エビデンス・ベースド・メディスン(科学的根拠に基づいた医療)の普及と、これに相反する様な「食品の安全・安心」の問題のクローズアップなどはこの「ギャップ」が表出したものであるのだろう。従って、産学官の各分野の研究者/技術者の社会的な役割は益々大きくなりつつある。

#### <健康産業を巡る科学技術の現状と将来—遺伝子情報を中心に—>

2000 年にヒトの遺伝子配列情報の解読が終了し、この国際共同プロジェクトの大きな成果を個人の健康状態の予測や疾病の治療へと活用する事への期待が大きく膨らんできた。しかし現状ではごく一部の遺伝的な疾患の診断への活用、また投薬時の適合性診断に活用されているに止まり、その結果、社会のバイオに対する夢はしばみつつあるのが世界的な潮流である。

その一方で、研究の現場ではヒトを含む多くの生物でのゲノム情報を活用した新しい研究手法が隆盛していて、バイオの研究開発部門はこの 10 年でパラダイム・シフトを起こしたと言って間違いない。ゲノミクスに始まってトランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクスなどの新語がそれを象徴している。その先にオーダーメイド医療などがあるだろう。

ここにおいては、データベースと、コンピューターの助けを借りたデータマイニングの技術は欠く事は出来ない。ここではバイオと情報技術 (IT) の融合が必然的に起きており、産業上に大きなインパクトを持つものと期待されている。

### <有用資源の網羅的な解析と商品開発>

バイオ及び IT 分野とその融合領域に照準を当てた産業振興は日本国内に於いても、また世界では先進工業国のみならず、新興工業国でも多くの計画が競合的に進められている。科学技術は本質的に世界共通のグローバルな普遍的道具であるが、その使い方を決めるのはローカルな人間の各々の頭で、従ってその意味で技術と文化は殊に大衆消費財における商品開発においては二本の大黒柱となる。その2つが揃ってはいはじめて独自性(オリジナリティー)が形となり、それが競争と淘汰の海を越えて普及と定着に成功すると翻って普遍性が具現化することとなる。即ち「普遍」は「独自」の反対ではなくて、むしろ逆に普及に成功し定着する条件の一つとして独自性が高い事を揚げる事が出来ると思います。

このような事を考慮に入れると、商品開発の成功は普及と定着を指標に測るべきもので、而して産業振興に資する術として産学連携を考えるならば、その研究開発を中心となって担うべき研究者/技術者はその周りにあるたくさんの大きな「ギャップ」を越えて行かなければならない。

### <連携ネットワークと技術のインテグレーション>

沖縄県において、飲食品を含めた健康産業と、それに呼応する分野の学官の研究者と技術者の総数は少なくはありません。産学官の連携を促す財政的な施策では比較優位があると言って良いでしょう。では産学官のネットワークの密度はどうかというと、それは必ずしも濃いとは言えないと思います。産と産のネットワークと言う事になるとさらに寂しいものに成っていると思います。

普及と定着に成功できるような独自性の高い商品の開発とは、多種多様な技術開発の成果が体系的に統合される結果として、初めて実現可能となるものです。

個々の資源の研究開発は小さなネットワークで実現可能です。それは小さな市場での競争には耐え得るでしょうが、では大きな市場の厳しい競争ではどうでしょうか。広範囲の技術の総合化とシステム化(インテグレーション)が必要となり、その実現のためにはあるべき理想の技術体系に沿った研究開発のネットワークの構築によってはじめてグローバルな競争に耐え得る独自性が築けるのではないかと思います。

### <研究開発と文化>

「研究開発」、「商品開発」と言うと技術の問題で、理系の専門分野の話しと言うように理解されがちなのですが、それは間違っています。

技術は夢を実現する為の道具/手段にすぎません。夢は人の頭の中で創り出されるもので、その下地となるのは広い意味での文化です。

商品が市場での競争に生き残ってゆくには色々な条件がありますが、その中でも研究開発の側面から大事なものは独自性です。独自性を商品の中に構築する為には、大衆消費財では特に、下地となる文化が大切な役割を果たして行くと思います。

したがって、商品開発において必要と成る筈のネットワークとインテグレーションは、技術分野には留まらず、もっと外へ、「ギャップ」を越えて広がってゆく必要があると思います。